

社会福祉学 第39号 2015

アメリカにおける男性同性愛高齢者の特徴と社会サービスの
提供に関する研究

Study on Gay people's Concerns about Aging and Social Services
in the United States.

加藤 慶

明治学院大学大学院
社会学研究科社会福祉学専攻

アメリカにおける男性同性愛高齢者の特徴と社会サービスの提供に関する研究

Study on Gay people's Concerns about Aging and Social Services
in the United States.

加藤 慶

Kei Kato

1. はじめに (問題意識・目的)

本稿は、アメリカにおける男性同性愛高齢者の特徴と課題を、文献研究をもとに明らかにし、日本の社会福祉研究において示唆されるべき点について検討するものである。

日本の社会福祉研究は、これまで人間が異性を性愛の対象とすることを暗黙の前提として、異性愛を基盤とした社会制度・政策をもとに社会福祉援助の検討を行っており、同性愛に関する体系的検討をしてきたわけではなかった。

一方、ソーシャルワークの先進国であるアメリカでは、高齢者における性的指向と性自認の多様性についての認識の広がりがみられるようになっていく。従来、ほとんどの高齢者向けプログラムや高齢者センター、長期療養施設、在宅サービスの提供は、すべての高齢者が異性愛であることを前提として提供されており、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) 高齢者は、周辺に置かれて阻害されてきた(Kimmel, Hinrichs & Fisher, 2014)。しかし、近年、同性愛者の社会的地位の向上により、高齢者への対応の必要性の認識が拡大している (Kimmel, 2014)。

本稿ではLGBT、とくに男性同性愛高齢者の特徴と社会サービス提供に関する課題に焦点をあて、アメリカにおける文献研究をもとに検討し、日本における社会福祉研究のあり方に示唆されるべき点につ

いて述べる。なお、男性同性愛においてHIV/AIDSの問題は特筆すべきものであるが、問題が多岐にわたることから本稿では検討せず、別の機会とする。

2. 研究方法

アメリカにおける男性同性愛高齢者に関する先行研究をレビューし、(1) LGBTの年齢構成によるアイデンティティと高齢者の特徴、(2) 男性同性愛高齢者のニーズ、(3) LGBT高齢者の強み、(4) LGBT高齢者に対する社会サービス提供機関の課題について概観し、日本の男性同性愛高齢者に関する社会福祉研究において示唆されるべき点について述べる。

3. 結果

3-1. LGBTの年齢構成によるアイデンティティと高齢者の特徴

2012年に行われた、120,000人のアメリカ人を対象としたGallupによる調査の結果によれば、ワシントンD.C.の10.0%をトップとして、全米の平均3.4%がLGBTであるというアイデンティティを有している (Gates&New Port,2013)。

アフリカ系アメリカ人とその他の人種民族的少数者は、白人アメリカ人と比較すると、LGBTであるというアイデンティティをより高く有している。アフリカ系アメリカ人は4.6%、ヒスパニックは4.0%、アジア人は4.3%である。なお、白人アメリカ人は、3.2%であった。加えて、若年層のアメリカ

査読結果通知日：2014年12月5日

論文受理日：2015年1月9日

カ人（18歳～29歳）は6.4%であり、65歳以上の高齢者は1.9%であったことから、若年層は高齢者よりも3倍以上、LGBTであるというアイデンティティを有している者の率が高い。なお、30-49歳は3.2%、50-64歳は2.6%であった。

今日、アメリカにおいてはLGBTであることを公にして生活する者が増えており、ほとんどの成人は一人以上の同性愛者を知っている（Montopoli, 2010）。また、LGBTである成人の家族には、子どもがおり、しばしばカップルの両親とともに良好に暮らしている。今日、アメリカでは、ゲイであることを公にしている若者や中年の人々を当たり前に見るようになってきたが、しかし、LGBTである高齢者と異性愛の高齢者の置かれている状況には大きな隔たりがある。

LGBTである高齢者は、人生において高いレベルでの差別や迫害を受けており、うつ病の発症率が高い（Bradford, Ryan & Rothblum, 1994; Fredricksen-Goldsen et al., 2011, 2013; Grossman, 2006; Shippy, Cantor & Brennan, 2004.）。また、異性愛の高齢者と比較して、LGBTの高齢者は、飲酒や喫煙の率が高い（Gruskin, Greenwood, Matevia, Pollack, & Bye, 2007; Valanis et al., 2000）。そして、ゲイとバイセクシュアル男性である高齢者はHIV/AIDSに罹患している率が高い（Dolcini, Catania, Stall, & Pollack, 2003）。

これらは、職場や地域における長期的なマイノリティストレスや、虐待、差別、保健医療への接触欠如、不適応に対する対処、HIV/AIDS、そして内面化された同性愛嫌悪意識によるメンタルヘルスの影響の結果による可能性がある。また、金銭上の課題による医療使用上の課題もあることが明らかになっている。社会的経済的に周辺に置かれたLGBT高齢者の場合は、孤立、貧困、ホームレスとなるリスクが、そうではない高齢者より高い（Grant, 2010）。

3-2. 男性同性愛高齢者のニードについて

メットライフによる調査（Metlife study, 2010）によれば、異性愛の高齢者は、同性愛の高齢者よりも配偶者や子どもと共に生活することを好むが、LGBT高齢者の2/3は一人で生活している。LGBTで

ある高齢者は、異性愛の高齢者と比較し、家族によらない高齢者介護のニードが高い。また、介助やレスパイトケアのニードは、LGBTである高齢者が極めて大きい。アメリカの大都市で生活するLGBTの高齢者は、彼らの年老いた両親や他の家族（兄弟等）だけでなく、パートナーや友人もケアしていることも多く、ニードはより大きなものとなる。しかし、公的なサービスはLGBTである高齢者のニードに対する準備が欠けたものとなっており（Bell, Bernklug, Kramer, & Saunders, 2010; Knochel, Croghan, Moone, & Quam, 2011）、またLGBTである高齢者自身が差別を怖れて、一般向けサービスの利用には前向きではない（Johnson, Jackson, Arnette, & Koffman, 2005）。

アメリカ医学研究所（IOM）による研究報告書（IOM, 2011）やアメリカ国立衛生研究所（NIH）の助成を受けた全米LGBT高齢者調査（Fredriksen-Goldsen et al., 2011）は、LGBTである高齢者のニードにより注意を払うべきことを指摘している。

LGBTである高齢者がどのような課題を抱えているのか、調査を行う必要性はあるものの、LGBTである高齢者は不可視化されていることが調査の障壁となっている。そのため、高齢者向けの社会サービスやプログラムは、彼ら彼女らを含めるものとはできていない。LGBTである80歳以上の高齢者や認知症高齢者に関して、アメリカ合衆国保健福祉省による全米健康調査やその他の調査によるデータから、その集団特性にあわせた、人口ベースによる調査を採用できる方法を見つけることが重要であると指摘される（Grossman et al., 2012）。

また、メンタルヘルスについてのニードもある。同性愛は、1970年代まで、すべての州において精神疾患とされ、違法とされてきた。ほとんどのゲイの高齢者は差別され、あからさまなハラスメントのある環境の中で20世紀を生きぬいてきた（Garnets & Kimmel, 2003）。そのため、同性愛であることが知られてしまうことへの恐れ、自らの性的指向や秘めた性自認を心に定着させることへの対応のニードがある（Kimmel, D., 2014）。

LGBT高齢者は、自らの隠している親密なことを、医師や病院のスタッフ、社会サービス提供機関に知

らせることについて、それを受け入れられることに対して不安を感じており、それが困難である場合がある。その不安のほとんどは、知らせることで、在宅介護サービスや介護施設において、自らがクローゼットに隠れざるをえなかった昔に戻されるのではないかというものである (National Citizens Law Center, 2011)。

同性愛を受け入れる社会の変化には著しいものがあるが、LGBTであることに対するスティグマの存在は、いまなおいくつかの場面において存在しており、多くの州において、同性カップルに対する不平等な取り扱いを行うための法律の制定もあり、(Human Rights Campaign, 2013)、LGBT高齢者をめぐる医学的、心理的、社会的課題は注目すべき事柄である (Kimmel, Rose & David, 2006)。

3-3. LGBT高齢者の強み

衰れで孤独なLGBT高齢者のイメージに対して、LGBTであることによるユニークな強みの存在を指摘する研究もある。例えば、LGBTコミュニティは強い人的繋がりや高い学位の所有と関連しており (Grossman, D'Augelli & Hershberger, 2000)、身体的健康や援助を得ることを促進することに関与している (Grossman, 2006)。先行研究は、LGBTであることを公にすることは結果として、自尊心や人生の満足度を高めることを提示している (Fredricksen-Goldsen & Muraco, 2010)。

また、Barrantiら (Barranti & Cohen, 2000) は、LGBTである高齢者は、そうではない者と比較して、老いを受け入れることのできる特別な要因として次のものがあることを指摘している。(1) 性的アイデンティティを受け入れる過程を通じて養われた対処スキルは、LGBTである高齢者の老いの受容を助ける可能性がある。(2) カミングアウトを行う過程と、「違い」を社会的に知覚させることを通じて養われたスキルによって、LGBTである者は生涯を通じて、若者指向である社会における高齢者の社会的認知の拡大に役立つことができる。(3) LGBTである高齢者自身が若者であった頃に直面した、ゲイやレズビアンであることにより変態としてスティグマ化されたものと比べて、老化によるスティグマは、そ

れほど深刻なものとはならない。(4) 定位家族や生殖家族からの拒絶されることに起因した経験から、LGBTがしばしば「自らが希望する家族」を形成することによって、人が生きるうえで必要なニーズに基づく社会的支援の拡大をはかることができる。(5) LGBTでは男女の役割の柔軟性が向上し、老化の受容を助けることに役立つ。

しかし、30年前のアメリカ社会と比較して、同性愛をめぐる社会的な受容は一般社会においては拡大されているにもかかわらず、これらの利点は近年のコホート研究においてさえ、知見が共有されておらず、同性愛に向けた明白な増悪、差別、偏見は、そのままとなっていることも多い (Brotman et al., 2003)。安全上、経済上の理由から、多くのLGBT高齢者は、加齢による影響を受けて、より一層不可視化され、クローゼットの中で隠れて暮らすことを強制されている (Butler, 2004)。

3-4. LGBT高齢者に対する社会サービス提供機関の課題

異性愛中心主義、同性愛嫌悪、トランスジェンダーに対する嫌悪、法律による差別や、同性婚ができないことによって既婚配偶者であることの利益を享受することができないことによって、LGBTである高齢者への社会サービスの提供に多くの問題や障壁が生じている (Smith & Calvert, 2001)。例えば、アメリカには、いくつかの小規模なLGBT高齢者向け社会サービス機関が存在しているが、ほとんどのLGBT高齢者にとっては、地域にLGBT高齢者向け社会サービス機関が存在していない。そのため、地域の主流な高齢者機関 (The Area Agencies on Aging: AAAs) にサービスの提供を求めなければならないが、ほとんどのAAAsは、LGBT高齢者のニーズには敏感ではない。1994年に行われた24のAAAsに対して行われた調査では、96%の機関が、LGBT高齢者に向けて設計したサービスの提供をしていないことが判明しており、さらにLGBTコミュニティをアウトリーチ活動の対象とはしていなかった。LGBT高齢者に向けた社会サービスを提供していたAAAsのある地域では、サービスの提供までに長い道のりがあったことが調査によって確認されて

いる (Behney, 1994)。LGBT高齢者向け社会サービスの提供の検討が求められた社会サービス機関がしばしば抱きがちな神話として、次の3つのものが指摘される。(1) 私たちの地域にはLGBTである高齢者はいない。(2) 私たち社会サービス提供機関は、誰に対してもオープンである。(3) 過去、それについて訊ねられたことはなく、ニーズが存在しないことは明白である。しかし、これらは神話であり事実ではないとされる (Butler, 2004)。

4. まとめ

アメリカにおいてLGBTである高齢者は、差別や迫害を受けており、うつ病の発症率が高く、異性愛の高齢者と比較して、LGBTの高齢者は、飲酒や喫煙率が高い。これらは長期的なマイノリティストレスや、虐待、差別、保健医療への接触欠如、不適応に対する対処、HIV/AIDS、そして内面化された同性愛嫌悪意識によるメンタルヘルスの影響の結果による可能性がある。また、金銭上の課題による医療使用上の課題もあり、さらに孤立、貧困、ホームレスとなるリスクがより高い。異性愛の高齢者と比較して、家族以外の者による高齢者介護のニーズが高い。しかし、公的なサービスはLGBTである高齢者のニーズに対応できておらず、高齢者自身が差別を恐れ、一般向けサービスの利用には前向きではない。

アメリカにおいてLGBT高齢者に関する研究の蓄積がなされている一方、日本の社会福祉学において、日本で生活するLGBT高齢者に関するニーズや社会サービスの提供に関する研究、社会福祉援助方法に関する研究は遅れをみせている。そこで、アメリカにおける研究成果をもとに、日本におけるLGBT高齢者、とくに男性同性愛高齢者に関する社会福祉研究に参考とされるべき点について述べる。

第一に、日本において生活する男性同性愛高齢者の特徴について調査を行い、その生活上の課題、ニーズを明らかにしていく必要がある。とくに、飲酒・喫煙・メンタルヘルス上の課題、介護ニーズ、孤立、貧困、虐待・差別・暴力、保健医療への接触欠如の可能性のあることの高齢者のリスクが高い可能性があることを認識したうえで、検討をしていく必要がある。ま

た、男性同性愛高齢者に対する社会福祉調査方法の検討も必要となろう。

第二に、男性同性愛高齢者への援助方法を検討するにあたり、日本で生活する男性同性愛高齢者の強みを意識し、援助に活用可能な強みとして、どのような強みがあるのかを検討する必要がある。

第三に、男性同性愛高齢者への社会サービス提供機関及び提供方法に関する現状を明らかとする必要性があることと同時に、いかに提供を行うべきであるのかについて検討を行う必要がある。

〈文献〉

- Aimee Van wagenen, Jeff Driskell & Judith Bradford. (2014), I'm still raring to go: Successful aging among lesbian, gay, bisexual, and transgender older adults, *Journal of Aging Studies*, 27, pp.1-14.
- Barranti, C., & Cohen, H. (2000). Lesbian and gay elders: An invisible minority. In R. Schneider, N. Kropt, & A. Kisor (Eds.), *Gerontological social work: Knowledge, service settings, and special populations* (2nd ed., pp. 343-367). Belmont, CA: Wadsworth.
- Bell SA, Bern-Klug M, Kramer KW, Saunders JB. (2010). Most nursing home social service directors lack training in working with lesbian, gay, and bisexual residents. *Social Work in Health Care*. 49(9), pp.814-831.
- Bradford, J., Ryan, C., & Rothblum, E. D. (1994). National Lesbian Health Care Survey: Implications for mental health care. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 62(2), pp.228-242
- Brotman, S., Ryan, B., & Cormier, R. (2003). The health and social service needs of gay and lesbian elders and their families in Canada. *The Gerontologist*, 43 (2), pp.192-202.
- Butler, S. (2004). Gay, Lesbian, Bisexual, and Transgender (GLBT) Elders: The Challenges and Resilience of this Marginalized Group. *Journal of Human Behavior in the Social Environment*, vol.9, No.4, pp.25-44.
- Dolcini MM, Catania JA, Stall RD, Pollack L (2003). The HIV epidemic among older men who have sex with men. *JAIDS Journal of Acquired Immune Deficiency Syndromes*, 33(2), pp.115-121.

- Fredriksen-Goldsen, Karen I, Kim, Hyun-Jun, et al. (2013). Health disparities among Lesbian, Gay, and Bisexual older adults: Results from a population-based study. *American Journal of Public Health*, vol.103, No.10, pp.1802-1809.
- Gates, G.G., & Newport, R. (2013). Gallup Special Report: New Estimates of the LGBT Population in the United States (<http://williamsinstitute.law.ucla.edu/research/census-lgbt-demographics-studies/gallup-lgbt-pop-feb-2013/>) (2014年10月30日接続)
- Grant, J. M. (2010). *Outing age: Public policy issues affecting lesbian, gay, bisexual and transgender elders*. Washington, DC: National Gay and Lesbian Task Force Policy Institute. (http://www.thetaskforce.org/downloads/reports/reports/outingage_final.pdf) (2014年10月30日接続)
- Grossman, A. H. (2006). Physical and mental health of older lesbian, gay, and bisexual adults. In D. Kimmel, T. Rose, & S. David (Eds.), *Lesbian, gay, bisexual, and transgender aging: Research and clinical perspectives* (pp. 53-69). New York: Columbia University Press.
- Grossman, A. H., D'Augelli, A. R., & Hershberger, S. L. (2000). Social support networks of lesbian, gay, and bisexual adults 60 years of age and older. *Journals of Gerontology*, 55b(3), 171-179.
- Grossman, A. H., Frank, J. A., & McCutcheon, M. J. (2012). Sexual orientation and aging in Western society. In C. J. Patterson & A. R. D'Augelli (Eds.), *Handbook of psychology and sexual orientation* (pp. 132-148). New York, NY: Oxford University Press.
- Gruskin, E. P., Greenwood, G. L., Matevia, M., Pollack, L. M., & Bye, L. L. (2007). Disparities in smoking between the lesbian, gay, and bisexual population and the general population in California. *American Journal of Public Health*, 97, pp.1496-1502.
- Human Rights Campaign. (2013). An overview of federal rights and protections granted to married couples. (<http://www.hrc.org/resources/entry/an-overview-of-federal-rights-and-protections-granted-to-married-couples>) (2014年10月30日接続)
- IOM (2011). *The Health of Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender People: Building a Foundation for Better Understanding*. (<http://www.iom.edu/Reports/2011/The-Health-of-Lesbian-Gay-Bisexual-and-Transgender-People.aspx>) (2013年10月30日接続)
- Johnson MJ, Jackson NC, Arnette JK, Koffman SD. (2005). Gay and lesbian perceptions of discrimination in retirement care facilities. *Journal of Homosexuality*, 49(2), pp.83-102.
- Kelly, J. (1977). The aging male homosexual: Myth and reality. *The Gerontologist*, 17, pp.328-332.
- Kimmel, D. C., Rose, T., & David, S. (Eds.). (2006). *Lesbian, gay, bisexual, and transgender aging: Research and clinical perspectives*. New York, NY: Columbia University Press.
- Kimmel, D. (1977). Psychotherapy and the older gay man. *Psychotherapy: theory, Research, and Practice*, 14, pp.386-393.
- Kimmel, D. (1978). Adult development and aging: A gay perspective. *Journal of Social Issues*, 34, pp.113-130.
- Kimmel, D. (2014). Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender Aging Concerns. *Clinical Gerontologist*, 37, pp.49-63.
- Kimmel, D. & Fisher, L.D. (2014). Understanding lesbian, gay, bisexual, and transgender elders. In P.A. Lichtenberg. & B.T. Mast (Eds.), *APA Handbook of clinical geropsychology*. Washington, DC: American Psychological Association.
- Kolb, Patricia J. (2004). Theories of Aging and Social Work Practice with Sensitivity to Diversity: Are There Useful Theories?, *Journal of Human Behavior in the Social Environment*. Vol.9, No.4, pp.3-24.
- MetLife Study (2010). Still out, still aging: The MetLife study of lesbian, gay, bisexual, and transgender baby boomers. (<https://www.metlife.com/assets/cao/mmi/publications/studies/2010/mmi-still-out-still-aging.pdf>)
- Montopoli, B. (2010). Poll: With higher visibility, less disapproval for gays. CBS News. (http://www.cbsnews.com/8301-503544_162-20007144-503544.html) (2014年10月30日接続)
- National Senior Citizens Law Center. (2011). *LGBT older*

- adults in long-term care facilities: Stories from the field. (http://www.lgbtagingcenter.org/resources/pdfs/NSCLC_LGBT_report.pdf) (2014年10月30日接続)
- Shippy, R., Cantor, M. and Brennan, M. (2004). Social Networks of Aging Gay Men. *The Journal of Men's Studies*, 13,1, pp.107-120.
- Smith, H. & Calvert, J. (2001). *Opening doors: Working with older lesbians and gay men*. London: Aging Concern England.